

平成24年度「特別支援教育総合推進事業（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）」報告書

団体名	徳島県教育委員会
研究開始年度	平成24年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

設置者	学校種	学校名（ふりがなを付すこと）
徳島県	特別支援学校	とくしまけんりつ あなん し えんがっこう 徳島県立阿南支援学校

### 2 研究テーマ

企業や福祉施設等の進路先の意見を踏まえた就労や地域生活に必要な能力の整理と、それを育成するための指導内容や指導方法に関する実践研究

### 3 研究の内容

#### (1) 研究内容

##### ① 学科・類型ごとの指導方法や指導内容の検討

平成23年度の研究の成果である企業や福祉施設等の進路先の意見を踏まえた、就労に必要な能力や地域社会に必要としている能力を進路区分別の4種類に作成したニーズ表をもとに、学科・類型ごとの授業実践を通して、具体的な指導方法や指導内容の検討をした。

##### ② 生活科学科・産業工芸科での取り組み

教科「流通・サービス」（環境サービス）と「福祉」（介護基礎）の指導内容を整理することを目的とした。ニーズ表から把握した企業や福祉施設等の意見を踏まえた就労に必要な能力を、確実に身につけられる指導内容を精選するために『テキスト「清掃」「介護」』を作成した。

##### ③ 普通科（職業基礎コース）での取り組み

ニーズ表の結果から、「あいさつ」「返事」「報告・連絡・相談」「社会のルールやマナー」「話す態度・聞く態度」等就労に必要な言葉を身につけるという課題が把握できたので、SSTの手法を用いて言葉遣いの指導を試みSST教材開発と指導プログラムの開発をした。

##### ④ 普通科（生活基礎コース）での取り組み

ニーズ表の結果から、「あいさつができる」「表情・ジェスチャー等でコミュニケーションができる」「感情が安定している」等の社会性に関する能力を伸ばすという課題が把握できたので、自立活動の指導として、「人間関係の形成」に重点を置いた指

導内容の工夫，充実を図った。

⑤ 学科・類型ごとの具体的な指導方法や指導内容の改善

ニーズ表による指導目標をどの教科に位置付けて指導すれば有効か，成果をいかに教育課程に反映させていくかを検討し，指導内容・指導方法の改善を図った。

⑥ 新しい教育課程の編成についての検討・協議

授業実践の結果を通して，学科・類型別に現行の教育課程が適切であるかについて検討し，明らかになった成果を平成 25 年度の教育課程の編成に活かし改善変更した。

(評価の観点)

① 環境サービス・介護基礎の指導において，本校の生徒の実態や企業のニーズに沿った，教員と生徒にとって有効な『テキスト「清掃」「介護基礎』』が作成できたか。

② 「SSTの指導」をとりいれることによって教育効果が上がり，場面に応じた言葉遣いができるようになったか。

③ 自立活動の指導において，「人間関係の形成」に重点をおいた指導内容の工夫がなされ，コンテンツ（教材集）が作成できたか。

(評価方法)

① 完成したテキストについて，専門家から指導助言をもらう。

② 指導目標に対する評価基準により，指導前後の記録をとり数値的な比較検討をする。

③ 授業研究会を実施し，専門家から指導内容について指導助言をもらう。

④ 教育課程の編成とニーズ表の活用について，専門家から指導助言をもらう。

⑤ 報告会を実施し，研究成果を再現できるように指導助言をもらう。

#### 4 研究成果の概要

(研究の成果)

① 生活科学科・産業工芸科での取り組みでは，環境サービス・介護基礎の指導において，本校の生徒の実態や企業のニーズに沿った，教員と生徒にとって有効な『テキスト「清掃」「介護基礎』』が作成できた。テキストは，A4サイズ，66 ページ，カラー版である。企業や福祉施設のニーズに対応した内容に厳選した。生徒が使用するテキストとして，授業時間中は確認や振り返りができ，事後に各自で復習する場合にも理解しやすい表記，指導内容や指導手順の観点からも工夫した内容に仕上がった。

② 生活科学科・産業工芸科の教育課程上の改善を図り，1年次に，「環境サービス」の時間を1単位時間新設し，全員がテキストを使用し清掃の基本作業の習得をめざす指導内容に変更した。

③ 普通科職業基礎での取り組みでは，SSTの指導により名前を呼ばれたら「はい。」と返事ができるようになった生徒の割合は，92%になった。質問されたら，「〇〇です。」と答えることができるようになった生徒の割合は，86%であった。さらに，「はい。」は96%。「わかりました。」は91%。「〇〇先生～です。」は88%の割合で答えられるようになった。全ての目標に対して効果があったことが客観的データにより明らかになった。

- ④ 普通科生活基礎での取り組みでは、自立活動の時間における授業内容の充実はともかく、般化場面としても指導の成果が上がった。

(課題)

- ① 社会の変化に伴い、就労先が製造業からサービス業へシフトしつつある現状を踏まえながら、今後もテキストの内容について、社会の変化や生徒のニーズに応じて柔軟に対応し検討を加えていく必要がある。
- ② SSTの指導を継続して実施するにあたり、教員の協力体制やシンプルなシステム作りをどのように進めていくか検討する。
- ③ 普通科生活基礎では、学習の般化場面での課題を積み重ねることによって、誰の指示でも理解でき、対応できる生徒を育成できるような指導内容を構築する。